

2月末、大学生2人が市長インターンシップとして、秘書業務にあたりました。インターンシップの学生と話したときの内容です。

## 快適な暮らしとは？

長久手市は、東洋経済新報社が、毎年発表する「住みよさランキング」において、平成26年は全国4位でした。「快適度」においては、全国1位となっています。大変有難いことに、多くの市民のみなさんが、「長久手は、快適で住みやすい」とおっしゃってくださっています。

この東洋経済新報社の「快適度」は、①汚水処理人口普及率、②都市公園面積、③転入・転出口比率、④新設住宅着工戸数によって決められています。一方で、みなさんが実感している「快適で住みやすい」は、実は、生活環境が整っていることに加え、「わずらわしいことがない」ことも理由の一つになってしまっていないでしょうか。

昭和30年代、都会では、団地が建てられ、「家付き、カー付き、ババア抜き」が日本中の憧れの暮らしでした。夫婦と子どもだけの生活で、両隣の顔を知らなくても生活できる、わずらわしいことが格段に減った暮らしでした。

みなさんの中には、あまりお付き合いのないご近所さんからあいさつをされたり、自分の子どもが他人に注意されたりすることをわずらわしいと感じる方もいらっしゃるかもしれません。でも、今、世の中で声高に言われている「つながり」や「絆」は、実は、わずらわしいことがないと成り立たないものだと思います。これまでのわずらわしいことを排除してきた生活の代償が、今の時代に来ているのではないかと感じます。

不便なこと、わずらわしいこと、もめごとがあることで、人は力を合わせ、つながりが生まれるのだと思います。敢えて、わずらわしいことをすることで、人は育っていくのだと思います。いいところ取りだけは、上っ面な付き合いになり、いずれ関係が上手くいかなくなります。自分にとって都合のいいことだけを追い求めても、人との関係は、成り立っていかないのです。

## 手づくりの取組み

最近、長久手の「手」は、手作りの「手」ではないかと思っています。文化や芸術は、機械が作るものではなく、人の「手」で作られます。農業や介護、まちづくりや人との交流も、人の「手」で作られたり、行われたりするからこそ、そこに温かさがあります。

これまでに市が行ってきた、地域福祉計画づくりや、地域共生ステーション、幸せ

のモノサシづくり、なでラボを始めとした様々な取組みは、これまでのようにコンサルタント会社にお任せするだけではなく、市民のみなさんとじっくり取組む、まさに手作りの取組みです。

「ああしたいね」「こうなったらいいね」「そのために、自分は何ができるかな」とみんなで話し合うと、それぞれの思いがぶつかり合い、うまくいかないこと、前に進まないことも多いので、失敗したり、時間がかかったりします。言ってみれば「とても、わずらわしいこと」です。でも、人が交じり合い、手作りで、力を合わせ、試行錯誤を重ねることで、そこで物語が生まれ、人が育っていくのではないのでしょうか。

これまで私たちは、わずらわしいことを避け、生活を機械化してきました。もっと便利な生活とは？ もっとお金を得るためには？と考え、それらを得ることが幸せだと思っていました。

GNH（国民総幸福量）で有名になったブータンは、GNP（国民総生産）は世界的にも低く、平均寿命も67歳程度であるにも関わらず、国民の約97%が「幸せ」と回答しています（2005年国勢調査）。彼らの生活は、農業が主であり、他人の力を借りながら、家族みんなで力を合わせて暮らしていくしかない、私たちから見れば不便な生活です。でも、きっとそこに彼らの幸せがあるのでしょう。

～市長の話を聞いて～

『「わずらわしいことがない暮らし』が、自分にとって『快適な暮らし』になっていないか？』という市長の指摘は、私自身、とても耳が痛いことでした。まさしくその通りに思っていたからです。「つながり」は大事と思っていても、確かに面倒です。「同級生と久しぶりに集まりたいな」と思っても、人数が多くなればなるほど、日程調整をして、みんなが楽しめるお店を探して、予約をして…と考えると、それだけで面倒で、集まるのが億劫になってしまいます。面倒は過程を含めて「楽しいな」と思えないと、同級生ですら続かないのです。

先日、なでラボ発表会の際に、山崎亮さんが「楽しさの自給率を上げる」という話をされました。お金を払って手に入れる楽しさではなく、自ら楽しみを生み出す能力を身に付け、その楽しさを誰かと共有することで、もっと楽しくなる。同じことを楽しいと思える仲間をどう作っていくか、そして、その仲間で何をやっていくかを考えることが大切だと。そうすれば、人生を最後まで楽しみ、人と人がいつまでもつながっていられるのだと。

「面倒だと思っていたけど、やってみたら楽しかった」「億劫だったけど、行っちゃえば楽しかった」という経験は、誰にもあると思います。私自身、一見、わずらわしそうなことでも、まずは「行ってみたら、やってみたら楽しいかも…」と思って、一步を踏み出すことを心がけようと思いました。